

令和4年度（2022年度） 第1回 函館市社会教育委員の会議 会議録

- 1 日 時 令和4年（2022年）8月4日（木）14時～15時45分
- 2 場 所 函館市役所8階大会議室
- 3 内 容
 - (1) 議事
正副委員長の選出について
 - (2) 報告
 - ア 令和4年度（2022年度）社会教育事業について
 - イ （仮称）総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方（たたき台）
 - ウ 第42回北海道社会教育委員長等研修会参加報告
 - (3) その他
 - 講演 社会教育委員について
 - 講師 北海道教育庁渡島教育局教育支援課
社会教育指導班主査（社会教育主事）柴田 快憲 氏
- 4 出席委員 10名
池田孝道委員長，外崎紅馬副委員長，須田晃至委員，瀬戸真理子委員，鈴木利治委員，佐々木香委員，高橋めぐみ委員，佐藤裕美委員，鈴木徹委員，風間美智子委員
- 5 欠席委員 5名
古俣みきお委員，花松均委員，勝盛浩文委員，横手義孝委員，佐木幸夏委員
- 6 事務局出席者 7名
川村真一生涯学習部長，清藤一実生涯学習部次長，神和幸生涯学習文化課長，長谷山裕一文化財課長，田中博文マラソン担当課長，熊谷正博物館長，筆村紀彰生涯学習文化課主査，葛西暁子生涯学習文化課主任
- 7 発言要旨
筆村紀彰生涯学習部文化課主査
本日は，何かとご多用のところ，ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

定刻になりましたので，只今から，令和4年度（2022年度）第1回函館市社会教育委員の会議を開会いたします。
私は函館市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習文化課主査の筆村と申します。どうぞ，よろしく願います。

本日の会議は午後4時頃の終了を予定しております。
ここからは、着席にて失礼いたします。

まず、はじめに、委員の出席状況について報告いたします。

本日の委員の出席状況でございますが、委員15名中10名のご出席をいただいております。函館市社会教育委員の会議規則第5条第1項の規定に定める過半数に達しておりますことから、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。
事前にお送りしたものといたしまして、

- ・次第
- ・資料1 「社会教育委員について」、横2枚組のもの
- ・資料2 令和4年度(2022年度)社会教育事業概要
- ・(仮称)総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方(たたき台)
- ・パブリックコメント(意見公募)手続「意見書」
- ・社会教育委員の会議 講演
- 「社会教育委員について」、こちらは縦の6枚組のもの
- ・令和3年度 函館市のコミュニティ・スクールの取組
～地域学校協働活動実践事例集～
- ・委員名簿
- ・座席表

の10点ございます。

このうち、資料2の令和4年度(2022年度)社会教育事業概要、座席表につきましては、訂正がございます。

訂正版を机上に配付しておりますので、差し替えのほど、よろしくお願いいたします。

また、本日は次の資料を机上で配布しております。

- ・函館市縄文文化交流センターのパンフレット
- ・世界遺産「大船遺跡、垣ノ島遺跡」のパンフレット
- ・世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」冊子
- ・函館博物館の企画展「平沢屏山とその時代」、
- ・函館博物館の企画「市制百年記念『写真でたどる函館の百年』」
チラシ
- ・「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録1周年記念
『北の縄文スタンプラリーinおしま』チラシ
- ・アーバンスポーツ イベント in ハコダテ

の7点でございます。

事前送付資料をお持ちでない方、机上配付資料に不足がある方はお知らせください。

筆村紀彰生涯
学習部文化課
主査

資料はよろしいでしょうか。
よろしければ、次に進みます。

つづきまして、生涯学習部長より、ご挨拶申し上げます。

川村真一生涯
学習部長

教育委員会生涯学習部長の川村でございます。

本日は、大変お忙しい中、社会教育委員の会議にご出席をいただき誠にありがとうございます。

委員の皆様には、日頃より各分野での活動を通じまして、本市の社会教育の振興にご尽力いただいておりますことに対しまして、この場をお借りして厚く御礼を申し上げる次第でございます。

本日は、2年に1回の委員改選後に開催されるはじめての会議となります。

はじめてご就任いただいた委員もおられますので、社会教育委員の役割などにつきまして、渡島教育局の社会教育主事であります柴田様の講演映像をご覧くださいほか、函館市教育委員会の令和4年度社会教育事業についてご説明申し上げますので、皆様には忌憚のないご意見をいただければと考えております。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

筆村紀彰生涯
学習部文化課
主査

それでは、委員の紹介に進みます。

本日の会議は委員改選後、はじめての会議でございます。

そこで、出席されている委員の皆さまをご紹介します。

函館市小学校長会から選出されております、

函館市立青柳小学校長の須田 晃至委員です。

北海道教育大学教授の外崎 紅馬委員です。

函館市文化団体協議会副会長の瀬戸 真理子委員です。

函館市スポーツ協会副会長の鈴木 利治委員です。

函館市青年サークル協議会理事の池田 孝道委員です。

函館市女性会議会長の佐々木 香委員です。

函館市PTA連合会子育て委員の高橋 めぐみ委員です。

函館法人会女性部会理事の佐藤 裕美委員です。

北海道新聞函館支社報道部長兼論説委員の鈴木 徹委員です。

公募委員の風間 美智子委員です。

続いて、本日欠席されている委員のお名前をご紹介します。

函館市中学校長会から選出されております、

函館市立戸倉中学校長の古俣 みきお委員

北海道高等学校長協会道南支部から選出されております、

市立函館高等学校長の花松 均委員

日本放送協会函館放送局放送部長の勝盛 浩文委員

筆村紀彰生涯
学習部文化課
主査

函館市町会連合会東部地区協議会の横手 義孝委員
公募委員の佐々木 幸夏委員です。

以上、5名が、本日欠席されております。

次に、教育委員会事務局職員をご紹介します。

生涯学習部長の川村 真一でございます。

生涯学習部次長の清藤 一実でございます。

生涯学習文化課長の神 和幸でございます。

マラソン担当課長の田中 博文でございます。

文化財課長の長谷山 裕一でございます。

博物館長の熊谷 正でございます。

生涯学習文化課主任の葛西 暁子でございます。

なお、本日、都合により、スポーツ振興課長の木村 敬とインターハイ担当課長の長尾 久美子が欠席いたしております。

議事には入ります前に、生涯学習文化課長より、函館市社会教育委員の会議について説明がございます。

神和幸生涯学
習文化課長

では、函館市社会教育委員の会議について簡単に説明いたします。
(資料1に基づき、社会教育委員について説明)

筆村紀彰生涯
学習部文化課
主査

それでは、本日の議事に入らせていただきます。

議事(1)「正副委員長の選出」でございます。

本来であれば、議事は委員長により進められるところでございますが、委員改選後初めての会議であり、委員長がおりませんので、委員長が選出されるまでの間、このまま事務局で進行させていただきます。

正副委員長は、函館市社会教育委員の会議規則第2条において「会議に委員長及び副委員長にそれぞれ1名を置き、社会教育委員の互選とする。」と定められております。

それでは、正副委員長の選出につきまして、皆さま、いかがいたしましょうか。

佐々木香委員

事務局一任

筆村紀彰生涯
学習部文化課
主査

ただいま、事務局一任という声がありました。

それでは、事務局から委員長候補者を提案させていただき、副委員長については、委員長から推薦していただいた上で、皆さまよりご承認いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

佐々木香委員

異議なし

筆村紀彰生涯
学習部文化課
主査

ありがとうございます。
それでは、事務局からは、函館市青年サークル協議会の理事を務められ、青年団体や若者に対する活動の支援、学習機会の提供を行うなど社会教育に造詣が深い池田委員を委員長として提案させていただきますが、池田委員、いかがでしょうか。

池田孝道委員

【承諾】

筆村紀彰生涯
学習部文化課
主査

委員の皆さまは、いかがでしょうか。
よろしければ、皆さまの拍手をもって、ご承認いただけないでしょうか。

【拍手にて承諾】

ありがとうございます。
拍手多数のようですので、池田委員を委員長として選出いたします。
それでは池田孝道委員長，正面の席にお移りください。

池田孝道委員
長

それでは池田孝道委員長よりご挨拶をいただき、そのまま、議事進行をお願いしたいと思います。
池田孝道委員長，よろしく申し上げます。

【挨拶】

それでは、副委員長の選出に進みます。
先ほど、副委員長は委員長の推薦で決めるということでしたので、私から副委員長を推薦させていただきます。

前期においても副委員長を務められた、北海道教育大学函館校教授の外崎紅馬委員に、今期も副委員長をお願いしたいと思います。外崎紅馬委員、いかがでしょうか。

外崎紅馬委員

【承諾】

池田孝道委員
長

委員の皆さまは、いかがでしょうか。
よろしければ、皆さまの拍手をもって、ご承認いただけないでしょうか。

【拍手にて承諾】

池田孝道委員長 拍手多数のようですので、副委員長は外崎紅馬委員に決定いたします。副委員長には席を移動していただき、一言、ご挨拶をお願いいたします。

外崎紅馬副委員長 **【挨拶】**

池田孝道委員長 正副委員長が決まりましたので、議事（１）「正副委員長の選出について」は、以上で終了といたします。

ここからは、報告でございます。
まず、報告（１）の「令和４年度（２０２２年度）社会教育事業について」を事務局より説明願います。

【次の順に、資料に基づいて説明】

- ・ 生涯学習文化課
- ・ スポーツ振興課（生涯学習部次長）
- ・ マラソン担当
- ・ インターハイ担当（生涯学習部次長）
- ・ 文化財課
- ・ 博物館
- ・ 各教育事務所（生涯学習文化課長）

池田孝道委員長 ここまでの説明に関して何かございますか。

佐々木香委員 アーバンスポーツイベント in 函館について質問いたします。
学校には様々な障がいをお持ちのお子様もいらっしゃると思いますが、その方からの参加の申込があった場合、受け入れは可能でしょうか。

川村真一生涯学習部長 障がいのある方の参加について、想定はしておりませんでしたけれども、障がいにも、いろいろな障がいの種類がありますので、どのような障がいなのかご相談いただきながら、対応可能な方であれば対応したいと思っております。

池田孝道委員長 はい。他に何かございますでしょうか。

1点目は、縄文遺跡群の活用についてお話しします。

コロナ禍の中でも、訪れる方が着実に増えているとのこと。資料にあるようなARなどの取り組みは素晴らしいなと思っております。観光動向に関する最近の報道によると、複数の受け入れ側が協力して「御朱印帳」のようなものを発行して、お客にスタンプラリーのように関連施設を巡って歩いてもらう観光に、人気が集まっているようです。

例えば函館市内の縄文遺跡の施設と東北地方の縄文遺跡群が連携し、共同で「御朱印帳」のようなものを発行して、互いに送客するような取り組みをしてはどうでしょうか。「北海道と北東北の縄文遺跡群をコンプリートしたい」という方が増えるのではないかと、そのような感想を持ちました。

2点目は、函館マラソン大会についてお話しします。

函館マラソン大会は、年々、参加者が増えています。

参加した方に伺ってみますと、走りやすいし、景観もすばらしく楽しく走れる大会だとのこと。函館マラソン大会は、全国的にも注目されているようです。

今年に限れば、千歳市JALマラソン大会が参加者を抑えた関係で、函館マラソン大会は、道内で2番目の規模でした。

もっと規模を大きくしていけるのではないかと、と思いますが、規模を大きくしていく上で何か、課題があるようでしたら、それを教えていただきたいと思います。

最後に全体的なお話ですが、生涯学習となりますと、民間でも同じような取り組みをされている企業があります。

なるべく市の取組や日程等が民間の事業とバッティングしないように、あるいは官民が連携して行っていく、という配慮も必要なのだと思います。

道内の他市町では行政の取組等が民間の事業とバッティングして、結果的に民業を圧迫してしまっているところもあるようです。幸いにも函館では配慮いただいているようなので、引き続き、官民で協力していただければと思っております。

ただいまご質問のありました函館マラソン大会の人数を増加する上での課題についてのご質問でございますけれども、まずは、新型コロナウイルス感染症の拡大の中で、今回は3年ぶりの開催となったことありまして、人数は若干減ったという状況でございます。

今後におきましては、規模の拡大を目指してはいるのですが、最終的に1万人規模にまで増えれば、と思っております。しかし、コースの狭さや、海外からのランナーの募集の仕方をまずは課題に上げなければならぬ状況です。

池田孝道委員長

全国で多くのマラソン大会が開催されている状況ですので、飽きのこないようなコンテンツを含めながら、拡大する方向で調整できればと考えております。ランナーの声に耳を傾けながら、よりよい大会になるように、常に努力をし続けていき、人数も増やししながら、経済波及効果も増えるような大会にしていきたいと思っております。

教育委員会が春夏秋冬で発行している小学生向けのプチまなびっと広場について質問です。

私は函館市青年センターの職員として、プチまなびっと広場、まなびっとの窓口業務をしているのですが、今回、夏号の発行日を教育委員会に確認したところ、7月20日に発行予定との回答をいただきました。7月20日ですと、7月上旬から中旬の講座については全く広報に至らないことになるため、なんとか発行日を早め、学校に配る日にちを早めていただけないかとお願いをさせていただきました、1週間ほど早く発行していただいたところでした。感謝申し上げます。

以前は、6月30日または7月の早い段階で学校に配られていたのですが、年々後ろの方になってきている印象があります。夏休みや冬休みに、親子で何かを一緒にやりたい、という声が非常に多くなってきていると感じておりますので、発行日を前倒しにできないか、検討していただければ思っております。

神和幸生涯学習文化課長

はい。事務的に精査をし、発行日を前倒して参ります。

風間美智子委員

私は社会学級の活動を長く行っておりまして、先日、社会学級の活動の一環として、博物館の企画展「平沢屏山とその時代」を観覧させていただきました。博物館長にはいつも、お世話になっております。

アイヌの方の生活という今までは大変さとか、辛さとか、多様な困難が多く描かれていることが多いのですが、今回の「平沢屏山とその時代」では、アイヌの方々の生活が生き生きと描かれており、人それぞれの表情がとても良いものとなっています。アイヌの方々は、水産業をして生活をしておりまして、昆布や鮭など色々描かれており、アイヌの方々の生き生きとしたところが、大変、よく描かれております。

また、リーフレットのブルー、グリーンや赤の色がとても綺麗に印刷で出ています。これは宝石でして、ブルーのインクはラピスラズリで、シルクロードに出てくるような宝石です。アイヌの方一人ひとりの表情もよく描かれております。

このように、博物館に行くと、新しい発見もありますので、ぜひ、多くの方に博物館を見て欲しいと思っております。

池田孝道委員
長

はい。博物館に足を運ぶと何か新しい発見があったり、色々な事をやっていたりしますので、是非、広く広報し、多くの人に博物館を知ってもらいたいと思います。

では他に何かございますでしょうか。

他にないようですので、報告（１）の質疑応答はこれで終わりにしたいと思います。

ここで、マラソン担当課長は退席させていただきます。

それでは、報告（２）の（仮称）総合ミュージアムについての基本的な考え方の議題について事務局より説明願います。

川村真一生涯
学習部長

【資料に基づき説明】

池田孝道委員
長

はい。ありがとうございます。

叩き台ということで、質問する側も、お答えする側もなかなか難しいかなと思いますけれども、正案化に向けて、このような場が出る意見も参考になることもあるかと思えます。それを踏まえた上で何か質問などございませんでしょうか。

川村真一生涯
学習部長

本日は、ご意見を出していただくための用紙をご用意しております。今日、この場でというのもなかなか難しいということもあると思えますので、何かご意見ありましたら、後からでも構いませんので、ご提出いただければ非常に助かります。どうぞ、よろしく願います。

池田孝道委員
長

はい。お手元に用紙がございますので、ぜひ皆さん、お使いになって、ご意見・ご質問等をお考えになっていただければと思います。

それでは以上で報告（２）を終わりといたします。

ここで、文化財課長と博物館長は退席いたします。

それでは、報告（３）第４２回北海道社会教育委員長等研修会参加報告に移ります。

この研修会には、私が参加いたしましたので、私から報告いたします。特に資料とかはございませんので、私の方で感想等をお伝えしたいと思いますので、お聞きいただければなと思います。

7月7、8日の2日間に渡って研修を受けてまいりました。

「社会教育委員とは」というメインテーマを基に、「社会教育委員の必要性」、「期待されていること」を考える機会となりました。

全体を通して感じたことは、「社会教育」に対する取り組み方が市町村によって大きく異なり、社会教育委員とはこういうものだと言では言い表すのは難しいということでした。しかし、2日間を通して自分なりの結論を考えてみましたので、そこに至るプロセスを研修の内容の概要を説明しつつ、報告させていただきます。

本研修は、1日目に「市町村社会教育委員長に期待する」という演題で、北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課課長補佐 山田智章氏にご講演をいただき、そのあとに「社会教育委員とは」～社会教育委員の必要性は？期待されていることは？という演題で、前恵庭市社会教育委員長 庄司宏氏と前佐呂間町社会教育委員長 船木耕二氏のお二方による対談が行われました。

2日目は、初日の内容を踏まえて1グループ4人に分かれて同様のテーマで話し合う分科会が行われました。

初日の講演の内容につきましては、本日の柴田快憲様のお話をご参考にしていただくこととしまして、私からは対談と分科会の感想等を述べさせていただきます。

まず対談からですが、恵庭市は社会教育委員のみでの自主的な研修を年に数回実施し、そのたびに復命書の提出・収集を繰り返すことで記録に残し、それを基に広報誌を発行して対外的に発信をする活動をしています。広報誌を見た方からの声を大切な情報として受け止め、これからの活動に生かしていくことを継続しているとのことでした。

佐呂間町は「住民主導」に強いこだわりを持っておられました。さらに、委員の年代層、男女数のバランスを強く意識するとともに、公募数を増やすことが肝要であるとおっしゃっていました。そこからは、地元から社会教育に対する熱量が高い人を集めたいという意思を感じました。

佐呂間町の社会教育委員は、予算の関係で参加人数が制限されている研修等に自費で参加するということが日常的に行われているということからも熱量の強さを改めて感じ取ることができました。

対談した両氏に共通していることは、「住民主導」の考えです。社会教育計画策定において行政の事務局任せにするのではなく、マスタープランは住民で作るという強い意識を持ち、委員中心で何度も会議を重ねて決定に至るというプロセスを実行していることから、うかがい知ることができました。

2日目の分科会では、置戸町、天塩町、苫前町の方々とグループワ

池田孝道委員
長

ークをしました。印象に残った置戸町の話させていただきます。

社会教育活動の拠点として公民館の存在が大きいことがわかりました。公民館といえば社会教育施設の先駆けとも言えるところであり、時を経るにつれてその時代に応じた設置目的を持った様々なジャンルの社会教育施設が全国的に作られていったところですが、置戸町では社会教育活動は公民館の職員、その事業計画策定を行うのが社会教育委員という明確な役割を持たせていることが印象的でした。

これまでの内容を函館市に重ねてみると、当市の社会教育委員とは立ち位置が明確に異なっていることがわかります。まず、函館市の社会教育委員は、学校教育に携わる方、社会教育に関する仕事を本業としている方、社会教育以外の本業を持ちつつ社会教育に関わる方などで構成されていることから、恵庭町、佐呂間町のように年に10回以上も会議の場を設けたり、また自費で研修に行くという行為は現実的なものとは思えません。また、置戸町のように特定の施設に社会教育機能を集中させるということも、まちの規模を考慮すると難しいであろうと考えられます。

最後になりますが、今回の研修における「社会教育委員とは」というテーマに対して私なりに結論をつけるならば、「それぞれの立場を生かし、できる範囲で社会教育を行うとともに、まちと時代に合ったアプローチを考えて、それを発信する役割を持つ市民」であると考えます。

このあとの柴田快憲様のお話を聞いて、さらに考え方のアップデートができればと思っております。以上です。

ここまでの説明に関して何かございますか。

他にないようでしたら、報告(3)を終わりといたします。

その他でございますが、本日は講演がございます。

講演の資料

- ・ 社会教育委員の会議 講演
- ・ 社会教育委員について
- ・ 令和3年度 函館市のコミュニティ・スクールの取組
～地域学校協働活動実践事例集～
をご用意ください。

柴田快憲氏
(映像)

本日は、北海道教育庁渡島振興局教育支援課社会教育指導班主査で社会教育主事の柴田 快憲様をお招きし、「社会教育委員について」と題したご講演をいただく予定でしたが、柴田快憲氏のご都合がつかなくなったことから、予定していた内容で講演を収録していただきました。

これからそちらをご覧ください。

柴田快憲氏
(映像)

【講演】(映像)
(講演内容は別添のとおり)

池田孝道委員
長

本来では、この場にいらしていただいて柴田快憲様からお話いただく予定だったのですが、それが叶わなかったのは残念です。

しかし、非常に社会教育法など難しいお話を平易な言葉で表現していただいて、すごく分かりやすかったのではないかと個人的には思っております。

ここにはいらっしゃらなかったですけど、時間を割いて映像を作っていた事に敬意を表して柴田快憲様に感謝したいと思えます。

この講演についてのご質問などございましたら、会議の終了後に事務局にお伝えください。いただいた質問については、事務局から柴田快憲様にお伝えし、後ほど、事務局から皆さまへ回答をお返しいたします。

神和幸生涯学
習文化課長

以上でその他(1)は終了といたします。

予定していた内容は、以上でございますが、事務局から他に何かございますか。

池田孝道委員
長

今年4月に、本市を含む2市9町の社会教育委員で構成されている渡島社会教育委員連絡協議会において、本市の池田孝道委員が同協議会の会長となることが決議されましたのでご報告いたします。

同協議会の役員は構成市町の持ち回りで務めており、任期は2年間となっております。

渡島社会教育委員連絡協議会についての報告でした。

ただいまの件、よろしいでしょうか。

ほかに皆さま、いかがでしょうか。

なければ、以上で令和4年度(2022年度)第1回函館市社会教育委員の会議を終了いたします。

皆さま、お疲れ様でした。

以上、令和4年度(2022年度)第1回函館市社会教育委員の会議の会議録とする。

委員長 池田 孝道